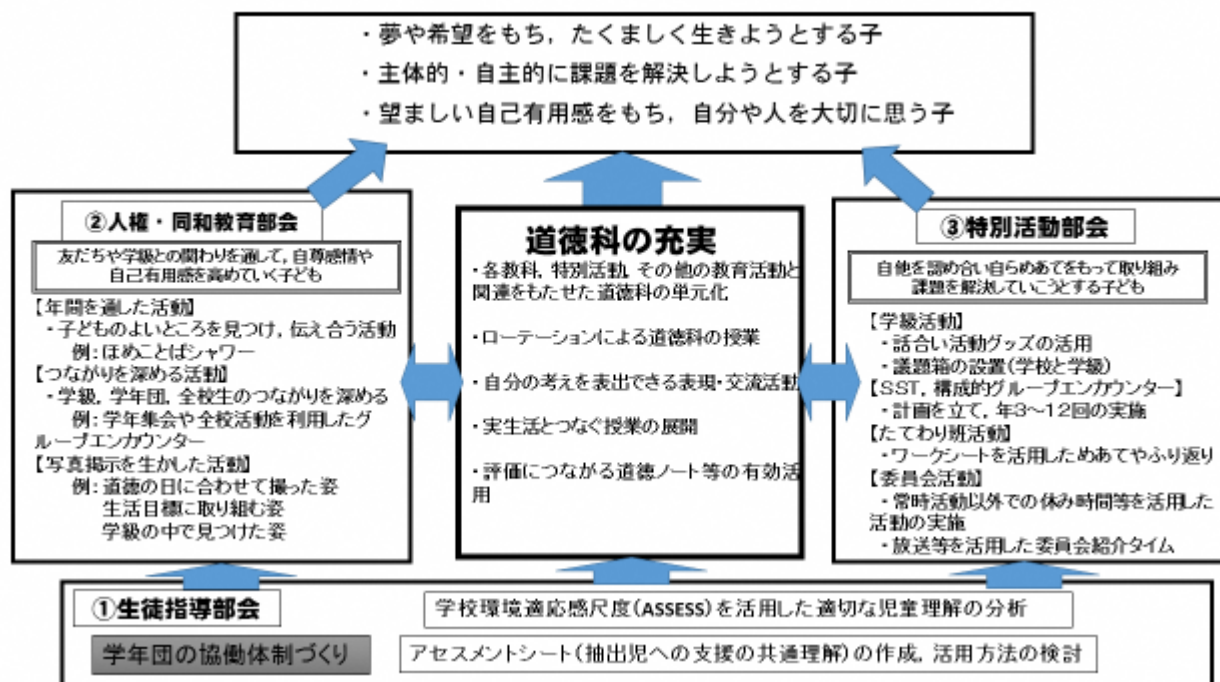


### 1 研究主題

自他の感じ方・考え方を受けとめ合い、自分を見つめ直す子どもの育成  
 —主体的によりよく生きようとする心を育む道徳教育—

### 2 研究の具体



### 3 研究の検証

- 道徳授業の単元化によって、他教科や日常活動での気づきや考えを道徳の授業で効果的に生かすことができた。
- 話し合いの目的と重点を明確にしてグループ・全体交流が行われるようになりつつある。そのことが道徳的な価値の自覚や自分事として考えるための支援となっている。
- 研究授業の事前検討会やローテーション道徳が必要に応じて柔軟に行われ、具体的な支援の在り方の吟味、教師の授業力向上、学年団の協働体制づくり、児童理解の深まりなどの成果が見られた。
- たてわり班活動や委員会活動などにおいて児童の自己有用感や自尊感情を高めるための具体的な活動が展開され、支援も有効に行われた。
- 学校環境適応感尺度 (ASSESS) による分析、意図的・計画的なソーシャル・スキル・トレーニングなどによって個別・具体的な支援が行われ、成果が見られた児童が多い。

### 4 改善の手立て

- よりよい道徳授業の実施のために、教師のさらなる授業力向上（問い返しの仕方、児童の発言の見取り方、板書構成力など）が求められる。
- 道徳科の授業における教師の定期的な評価の在り方・児童が活用する道徳ノートの記述の仕方をさらに研究していく必要がある。
- 豊かで実りある授業や特別活動実践のために、活動の意義の共有化、内容の精選、教師間（同学年・異学年）の連携にさらなる工夫が必要である。
- 学校内外での豊かな体験活動を一人一人が今後の生活に生かし、よりよい家庭・学級・学校生活につながるための支援が求められる。